楽しかった「和やか忘年会」

９組　遠藤　幸子

昨年１２月１４日(土)　後楽ホテルにて「なごやか忘年会」が開かれ参加しました。２９名の参加者で初めての方もあり楽しいひと時をすごしました。

この会は、平成２６年から田中律子さんたちをはじめ有志の方々や、婦人部の皆様のご協力で夏祭り、星空サマーコンサートなどの出店の利益を還元していただき、田中野田の女性の親睦をはかり「なごやか忘年会」と称して６回目を迎えました。

日頃あまり顔を合わす機会も少なくなり、この会で皆さんとお会いできて、とても嬉しく思いました。１１時３０分から笑顔で記念撮影を済ませ、テーブルごとに自己紹介があり、続いて、メインの食事が始まりました。どの料理も美味しくいただきながら、私たちのテーブルは子供のころの懐かしい食べ物の話や、地域によって呼び名が違うなど話が盛り上がりました。他のテーブルの人たちも、楽しい笑声で話に花が咲いていました。和やかな時間もあっという間に経って１４時１５分に後楽ホテルを後にしました。

最後にこの会をお世話して頂いた皆様に感謝申し上げます。　ありがとうございました。

雑 記 帳

AI 化の波にどのように対処すべきなのか

月日の過ぎるのが年々早くなるように感じられる。令和元年はことのほか早かったように思う。もっとも平成３１年が４月で終わり、新元号は５月からだったので当然といえば、当然のことである。

この令和という元号が、ふさわしいのかといった議論があったが、今ではすっかりなじんだ感がある。厳しい寒さのあと、美しく咲き誇る梅の花のような希望に満ち溢れた時代にしていきたいとの意味が込められているとのこと、すてきな元号といえるのではないか。

御代代わりの年には、一生に一度見られるかどうかという「即位の礼」、「大嘗祭」等、一連の皇室行事がある。我が国の長い歴史、奥深い文化に感銘をうけざるを得ない。改めてこの国に生まれてきたことを感謝したのは私だけではないはずだ。

いよいよ、令和二年が始まる。希望に満ちた年となるように願わずにはおれないが、世界情勢は平和で安定した方向に進んでいるようには感じられない。厳しい状況はこれからも続くのではないかと心配される。

さて、近年のＡＩ化の進展はめざましく、今や、我々の生活様式や価値観さえも飲み込んでしまいそうな勢いで迫りくる。この変化について行くのも大変なことだ。

次から次へと、考える暇も与えられず、快適で便利なシステムが押し寄せるが、便利さのみを求めることが人として幸福なのか、ゆっくりと考えなければとんでもない過ちを犯してしまうのではないかとの危機感もある。

我が国は、古来より外国の文明をうまく取り入れ、日本文化になじませ発展してきた。

一方、守るべきものとして、皇室を２６００年以上も尊び、守り続けてきた。これは世界の宝とまで言われる。

守るべきもの、時代に合わせ変えていかなければならないもの、きちんと見極めなければならない難しい時代に遭遇している。ＡＩ化の波に取り残されるのではとの恐怖があるが、落ち着いて正しい選択をしなければならない難しい年になりそうだ。

（独り言）